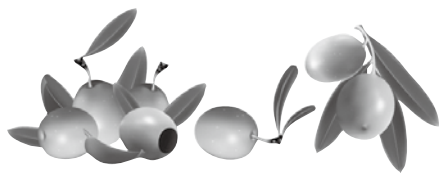


オリーブで輝く江田島市 !!



# オリーブ 栽培管理の手引き



オリーブは、モクセイ科の常緑樹で、紀元前から地中海沿岸で栽培・採油されてきました。我が国では、1860年代にフランスから輸入した苗木が横須賀に植えたのが最初とされています。

果実をオリーブオイルの原料とするほか、テーブルオリーブスにしたりします。

ノアの箱船の鳩とオリーブの木の伝説にちなみ平和のシンボルとされており、国連のマークにデザインされています。花言葉は「平和」。

また、オリーブの木は古代ギリシャでは知恵の女神アテネが作った木ともされ「知恵」も意味します。

平成 25 年 9 月

江田島市オリーブ振興協議会



# オリーブの栽培管理

## 1 栽培に適した気象

オリーブは年平均気温が 15℃前後の温暖な気候を好み、日照量が多いほど生育がよく、年間 2,000 時間以上の日照時間が望ましい。

また、乾燥を好むとされていますが、良好な生育や果実の生長のためには、年間の降水量は 1,000mm 程度が必要です。

※江田島の気象 ●平均気温：16.7℃ ●平均降水量：1,327mm ●平均日照量：2,144 時間  
(平成 11 年～ 21 年の県気象観測所の観測結果による)

## 2 土壌条件

江田島市全域で栽培が可能ですが、特に排水が良好で、十分な保水力と保肥力に富んだ肥沃地が適しています。

また、日の差す方向へ枝が伸びていく強い向日性の特徴がありますから、日当たりの良い場所を選びましょう。そのほか、根がもろく倒れやすいので、風の強いところは避けた方がよいでしょう。

## 3 品種

江田島市では、主に 4 品種を栽培しています。

〈表 1〉 江田島市で栽培している主要品種の特徴

主要品種名	樹性			果実形質				
	樹形	樹高	耐風性	果形	大きさ (g)	耐病性	熟期	用途
ミッション	直立形	高	弱	ハート形	2.5～3.0	弱	中～晩	塩漬・オイル用
マンザニコ	開張形	中	強	球形	3.0～3.5	弱	早	塩漬用
ルッカ	開張形	高	強	長卵形	1.5～2.0	強	晩	オイル用
ネバディロ・ブランコ	開張形	中	強	長卵形	2.0～2.5	中	晩	オイル用

## 4 植え付けと管理

1 月～3 月が最適ですが、ポット苗の場合は盛夏及び厳冬を除き、周年植え付けが可能です。

植え付け後の生育をよくするために、植え穴を深く耕し、耕した土に苦土石灰・完熟堆肥等を混ぜて埋め戻します。また、オリーブは根が浅く倒伏しやすいので、植え付け後すぐに支柱を立てて固定します。植え付け後は、たっぷりと灌水（水やり）してください。そのほか生育速度が速く、4～6 年経過すると樹の間隔が狭まってきますので、品質の向上や管理作業の効率化のため、成木となった時点で隣接樹と枝が触れ合わない程度の適切な間隔が必要となります。(最低でも 5m～6m 間隔で植えてください。)

## 5 施肥

肥料は、前年の結果量、土壌条件、気象条件などにより調整します。

施肥時期および施肥量は「ひろしまフルーツ BB 濃縮 300」を使用した場合は表 2 を標準としてください。

〈表 2〉 標準施肥量 (例)

(単位：g/本)

時期	樹齢	未結実期	結実初期	成木
		植え付け後 1 年～3 年：100 樹/10a	植え付け後 4 年～9 年：100 樹/10a	植え付け後 10 年以上：50 樹/10a
春肥 (3 月中旬)		175	350	1,150
夏肥 (6 月下旬)		75	190	540
秋肥 (10 月下旬)		75	190	540
合計		325	730	2,230

## 6 灌水（水やり）

オリーブは乾燥に強いと思われがちですが、それは大まちがい。水はけのよいのが好きで、むしろ水はじゅうぶんにあったほうが元気に育ちます。1年を通して土の表面が乾いたらたっぷりと水やりをしましょう。花芽の分化する冬と開花結実期は、水が少ないと花つきが悪くなったり、果実がシワシワになるので、とくに注意してください。

## 7 病害虫防除

オリーブの木に虫や病気の疑いがあったら、それぞれの対処法に合わせ、迅速に手を打ちましょう。

〈表3〉 病害虫防除

病害虫名	発生時期	特徴	対処法
オリーブアナアキゾウムシ 【木が枯れます】	4月 ～ 11月	モクセイ科であるオリーブの大敵で、幹が親指の太さ以上に生長した木につきます。成虫はゾウの鼻のような長い口がついており、黒褐色で体長1.5cm程度、冬季には樹皮下や枯れ枝の下で越冬し、3～4年生存します。幼虫は表皮の内側に潜入り、食入孔からオガクズ状の木屑を出しながら60～200日の間、害を加え続ける。その後、木の芯に近い部分に楕円形の空間を作ってサナギになり、10～15日で羽化し成虫となる。	薬剤散布が必須防除です。オガクズ状の木屑を発見したら、株元や木肌をよく見て、ぼこぼこ荒れた部分を探します。そこをマイナスドライバーなどでほじると、食害された木質部がぼろぼろとくずれるので、かきだし、幼虫や成虫を見つけて捕殺します。さらに薬剤を傷口や主幹全体に散布します。
ハマキムシ類 【葉や果実に被害】	4月 ～ 11月	体長2cmほどの青虫で、葉を葉巻のように丸めたり、白い綿状のものでくるんで中に入り、葉を食べるほか、実に穴をあけて中に入り食害します。年に4回～5回ほどのサイクルでだらだらと発生するので、成虫・幼虫・サナギが常に見られる。	丸まった葉や、白い綿状のもので何枚かつづられた葉、丸く穴があいた実を見つけたら、中に幼虫が潜んでいるので、傷んだ葉や実をこまめに伐採、摘果して取り除きます。
炭疽病 【果実に被害】	7月 ～ 11月	ミッションに発生しやすく、果実に褐色の斑点ができてじょじょに広がります。	病気になった実は早めに取り除き、落ちた実は拾って、病気が広がらないように注意します。予防法は枯れ枝や弱った枝などをこまめに取り除き、適切な剪定を行ってつねに風通しをよくすること。肥料の窒素分を控えたり、水はけをよくするのも有効。
しょうこ病 【枝が枯れて、木全体が枯れます】	5月 ～ 10月	枝の先が50cmから1mくらいにわたり茶色く変色し、葉が落ち、しだいに枝全体の葉が落ちてしまいます。	症状を見つけたら、枯れた部分をすべて除去。新芽が出てくれば生きている目印です。予防法としては、つねに枯れ枝を見つけたら早めに除去するほか、余分な枝をほらい、風通しと日当たりをよくしましょう。

※薬剤等の詳細については別表「オリーブ栽培暦」を参照。

## 8 結実

単一品種では受精・結実しにくい性質（自家不和合性）があるので1～2割の受粉樹（異なる品種（できればネバディロ・ブランコ））を混植する必要があります。

## 9 収穫

塩漬け用オリーブは、濃緑色の果実が黄化を始めたころ収穫します。マンザニロは9月下旬～10月上旬、ミッションは10月中旬～10月下旬で

す。また、赤紫色に成熟した果実も熟果塩漬用に加工できます。油用果実は、黒紫色に完熟した果実を11月上旬～12月上旬頃にかけて完熟した果実を収穫します。

〈表4〉 オリーブの収穫時期

オリーブの品種	塩漬け用	オイル用
マンザニロ	9月下旬～10月上旬	10月上旬～10月下旬
ミッション	10月中旬～10月下旬	10月中旬～11月下旬
ネバディロ・ブランコ	—（※1）	10月下旬～11月下旬
ルッカ	—（※2）	11月上旬～12月上旬

※1 身が柔らかいため適さない。 ※2 実が小さいため適さない。



## ⑩ 整枝・剪定


オリーブの根が休眠している12月～3月ごろがベストです。それ以外の時期に剪定を行っても構いませんが、真夏は避けてください。ただし、移植時や強風などで樹が傷ついた状態の場合は、迅速な措置が必要です。オリーブの剪定では、風通しを良くすることが重要です。幹や向こうが透けて見えないほど枝が込み合っている場合は、剪定が必要です。

落とすべき枝は次のような枝です。

- 枯れ枝
- 内向きの枝
- 幹や太枝から真上に向かって伸びる枝
- 根元から伸びる枝
- 重なり合いこすれている枝
- 1カ所から何本もでている枝。

〈表5〉 オリーブ栽培ごよみ

果実は傷つきやすいので収穫には細心の注意を払います。

月 旬	生育状況	作業項目	備 考
1月下旬	休眠	石灰施用／深耕	成木1本当たり2kg程度の苦土石灰を全面散布し、軽く表土と混和する。
3月上旬	花芽分化開始	春肥施用／整枝・せん定／植付け	低木に仕立て、側枝の更新を図る。新植、補植苗の定植はこの時期に行う。
4月上旬	萌芽開始		
5月中旬	花芽発育		
5月下旬	開花		
6月中旬 6月下旬	幼果発育 旧葉落葉始め	敷ワラ・敷草 夏肥施用	
8月	果実肥大期	灌水／台風対策	晴天が10日以上続けば十分灌水する。支柱を立て、針金誘引、排水溝の整備をして台風に備える。
9月中旬 9月下旬		秋肥施用 塩漬け用果実の収穫	マンザニロの収穫
10月中旬 10月下旬		塩漬け用果実の収穫 晩秋肥施用	ミSSIONの収穫 結実の多かった樹は多めに施用する。
11月上旬	果実成熟	油用果実の収穫	MISSION熟果の収穫 各品種の完熟果の収穫
12月		油用果実の収穫	全果実の収穫

〈表6〉 雑草の防除

農薬名	対象雑草名	処理方法	使用時期(回数)	10a当り		効果等
				使用量(mℓ)	散布量(ℓ)	
ラウンドアップ マックスロード	スギナ	雑草生育期 莖葉散布	収穫7日前まで (グリホサートを含む農薬の総使用回数3回以内)	1,500～2,000	(少量) 25～50 (通常) 50～100	●草が枯れるのは遅いが、効き目が長続きする。 ●梅雨以降の夏草に有効。
	マルバツユクサ			500～1,500		
	一年生雑草			200～500		
	多年生雑草			500～1,000		
ザクサ液剤	一年生雑草	雑草生育期 莖葉散布	収穫前日まで (雑草生育期: 草丈30cm以下) (年間3回以内)	300～500	100～150	●散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。 ●冬場は効果の発現が遅れることがある。